848. 折ウォ 34号

長丸・長崎・一生

長谷川四郎

一

○そこは長崎造船所で、川崎がまぶしく吹き

つけて、中空にひょうが立ち、中秋の満月、

櫓下にある。三菱の紋を青地にぬいて初秋

の空の大きな旗は、長崎港のおちこちで、揚っ

りの中空の上を、ぱたぱたと音をたて鳴りは

ためく。生化中秋の満月全盛の、大正の末

長崎港である。

○そのころ[illegible]の少年たちを、ふ、ふ、ふ

ところ、小さいものが、[illegible]、

つ[illegible]こうあらず……。

○といってもその中、オトーとつぶやく

の鐘の、はるか下には[illegible]などを[illegible]

酒の女体のみ[illegible]といえば、皆一様に言い頭

上りを、[illegible]ん振袖で下駄トーく鳴りがじ